

令和2年度第2回ヤクシカWG合同会議における主な意見・助言等に対する今後の取組方向

課 題	主な意見・助言等	関係機関	回 答 等
<p>議事－1</p> <p>ヤクシカの生息状況とその行動圏等について</p>	<p>(1)ヤクシカの生息状況・個体数について</p> <p>①糞粒調査と糞塊調査の2つとも実施し続けるのか、どこかで一つの手法にまとめるかの検討が必要。(松田委員) ②糞粒法は、年度によるばらつきが見られる。1年毎の結果で言及できることは少ないため、地点毎ではなく河川界区分で、複数年のトレンドを追うことが必要。 図6について、個体数推定値が縦軸になっているが、推定生息密度にすると、河川界区分のシカの生息状況が分かりやすくなる。(濱崎委員) ③河川界毎に面積や植生が違うので、目標とする生息密度が違ってくる。それを整理して、河川界毎にどこを目指しているのか明確にすると捕獲計画が立てやすくなる。(八代田委員)</p>	<p>環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町</p>	<p>①②平成26年度に糞塊法調査を本格的に導入した際にも議論されたが、糞粒法、糞塊法ともに一長一短があるのが事実。ただ、指摘のとおり、両方の調査に漫然とコストをかけ続けるのではなく、どこかで整理が必要と考えている。過年度の調査結果も踏まえて、WGに相談したい。 糞塊法についても、河川界区分で示せるか検討する。 また、鹿児島県の資料について、図の表記方法については、検討したい。 ③河川界区分ごとの生息密度の推移がわかるように資料を工夫するとともに、当面の目標として設定している半減目標に達した場合の生息密度との差がわかるように工夫したい。科学的な視点に基づく各河川界区分ごとの生息密度については、WGの議論の推移を見ながら検討していきたい。</p>
<p>(2)九州森林管理局による調査事業の結果概要・高標高域に生息するヤクシカの行動圏の把握について</p>	<p>①GPS調査については、有用なデータを得るために、複数年追跡する調査スケジュールを設定してほしい。(濱崎委員) ②資料1－④の中では、季節移動を確認できずと結論が示されているが、この個体の追跡結果だけでも行動圏の面積としては低標高域のものよりかなり広い。季節的な移動が確認できなかったのかどうかも、示された資料だけでは少し分かりにくいので、できれば月ごとの測定点の分布を示す図を作って、利用地域の標高を月別にまとめて、今後の捕獲を考える上での資料としてもう少し分析を深めてほしい。(濱崎委員)</p>	<p>環境省 林野庁</p>	<p>①当初は、複数年の追跡スケジュールを予定していたが、今回、機器のトラブル等から十分なデータ収集ができなかった。実施する場合は、複数年の追跡スケジュールとしたい。 ②過年度結果と合わせて、分析を行いたい。</p>
<p>議事－2</p> <p>捕獲等の被害防止対策について</p>	<p>(1)屋久島町における鳥獣被害防止対策</p> <p>新規の狩猟免許取得者が、技術習得してシカ捕獲に従事できるよう育成支援体制を構築してほしい。(八代田委員)</p>	<p>屋久島町</p>	<p>新規免許取得者は即戦力にはならないので、交付金を利用した講習会などを検討していきたい。 また、鹿児島県猟友会が主体となり、新規免許取得者に対しての技術指導を行ったり、屋久島町内の両猟友会内でも中核を担う会員が指導を行っている。</p>
<p>(2)ヤクシカの捕獲状況</p>	<p>シャープシューティング等の事業による実施時期は限られているので、事業実施期間のみ数字の表記で、それ以外は「－」で表記してもらいたい。(八代田委員)</p>	<p>林野庁</p>	<p>次回WGの資料から意見のとおり表記したい。</p>
<p>(3)シャープシューティング体制によるヤクシカ計画捕獲結果・計画捕獲誘引状況結果</p>	<p>①西部地域と言うと、一般的に遺産地域内と捉えがちなため、楊子林道24支線付近であれば「南西部」等表記の仕方につけてほしい。(手塚委員) ②シャープシューティング実施に当たり、一昨年と本年度で、情報共有と日程調整の部分で改善すべき点が若干あった。捕獲はオール屋久島で取り組むということで、ぜひとも十分な日程調整と情報共有を進めてほしい。(鈴木委員)</p>	<p>環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町</p>	<p>①表現や表記に配慮する。 ②ヤクシカ捕獲の有効性を確保するために、関係機関で情報共有や日程調整等を徹底していきたい。</p>
<p>議事－3</p> <p>森林生態系の管理目標及びその他植生モニタリング等</p>	<p>(1)絶滅危惧種のモニタリング調査等結果</p> <p>屋久島全体でヤクシカ密度が下がり、植物が回復傾向にある中で、南部で大型ランを中心に絶滅危惧種の減少が今なお続いている。対策としては、小規模でもよいので柵を作るのが現実的と考える。(矢原座長)</p>	<p>環境省</p>	<p>関係機関と連携し、優先順位をつけて可能な限り検討していきたい。</p>
<p>議事－4</p> <p>特定エリアの対策(西部地域)</p>	<p>(1)屋久島西部地域におけるヤクシカ計画捕獲結果・ヤクシカ管理に関するモニタリング結果</p> <p>①西部地域の扱いについては、議論が二分しており、対策により植生回復を図る場所と植生やシカの個体群変動の推移にまかせる場所の両方を設定する以外折り合いをつけられないと思うが、植生回復を図る場所についてはしっかりと捕獲やモニタリングをしていく必要がある。(矢原委員長) ②ラインセンサス等と違い、カメラによる調査は面的なシカの密度を把握できるため期待している。(鈴木委員) ③個体数管理区の生息密度や区域の面積、自然増加率等を合わせ、必要捕獲数を算出してほしい。(濱崎委員) ④WGを行う前に個別に委員に相談してほしい。そうすれば委員も貢献できる。(松田委員)</p>	<p>環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町</p>	<p>①～③初年度に、どの程度の捕獲ができるか不透明であったが、可能な限り多くの個体数を捕獲するという方針であった。自然増以外に区域外からの流入の可能性もあるため、広域的にセンサーカメラなどを用いて捕獲区の影響がどこまで及ぶのかモニタリングしたい。まずは密度をしっかりと評価しつつ、目標の5頭/k㎡の捕獲計画を目指したい。 ④必要に応じて、事前に委員へ相談しながら、進めていきたい。</p>